

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 佐藤 久美

作成日 2024年2月26日

【責任】

応用薬学部門薬理学分野に所属し、主に薬理学に関する3~6年生の講義・実習（薬理・医薬化学概論、薬と疾病）を担当している。4-6年生のクラス担任・卒業研究指導教員として、卒業研究指導や就職支援を行なっている。

【理念】

学生が、将来、医療の現場で活躍する医療人になることを常に意識し、そのために何をしなければならないかを自身で明確な目標を理解した上で学んでいって欲しい。医療人であるには、知識は勿論のこと、相手を思いやる気持ちや、コミュニケーション能力のもとに成り立っている。知識については、めまぐるしく進歩する医療の現場では、常に新しい情報・知識を自ら得るという姿勢を学生時代から身につけていくことが重要である。新しい情報を得るといえるのは、受動的な情報だけでは足りず、自身から追い求めていく姿勢が必要である。

【方針・方法】

「学ぶことの楽しさを知る」、「問題解決能力を身につける」、「学生が自ら学ぶ姿勢を身につける」、「コミュニケーション能力を醸成」ことを主な方針として方法を考えていく。

方針1 「学ぶことの楽しさを知る」

何故、この内容を学ぶのか意味を理解させた上で、それを学ぶことが楽しいと感じさせたい。

まず、低学年の講義では、基礎学力をしっかりとつけさせるよう頻りに演習などを実施する。基礎学力が不足していると、高学年の専門教科の内容の理解に支障をきたし、結果的には国家試験の可否に直接影響する。

薬理学関係の多くの講義を担当しているので、関連する雑談などを多く取り入れたり、DVDなどの視聴覚教材を利用し、自然に学生の興味を引くような内容にする。

卒業研究を通して、講義では触れられなかった専門的な内容を提供する。卒研学生には、「学会発表」という目標を提示し、研究に対する興味のきっかけとする。

方針2 「問題解決能力を身につける」、「学生が自ら学ぶ姿勢を身につける」

実習（衛生・医療薬学実習）の一部で、PBL、TBL形式を採用し、提示した課題に対して問題解決をさせる機会をできる限り設ける。卒業研究では、学生自身に研究テーマを考えさせ、選んだテーマの論文調査をし、まとめさせる

方針3 「コミュニケーション能力を醸成」

卒業研究の中で、研究内容について常にディスカッションの機会を設け、プレゼンテーションを実施させる。その他にゼミ学生と日常的に接する中で、就職支援などとともに学問以外の指導もコミュニケーション能力の醸成に繋がっていくと考える。

【成果・評価】

授業評価アンケートでは、概ね高い評価を得ている。卒業生から大学時代の講義が役に立ったという話をきいている。

毎年、卒業研究の内容を学生が学会(日本薬学会北海道支部例会、日本薬学会年会)で発表できている。卒業研究の学生が自らの研究を論文にすることは難しいが、学生が実施した実験データをまとめ、学生の名前を載せた論文を投稿している。

【目標】

- ・短期目標：学生のアンケートに記載された内容を参考とし、講義の改善に努める。卒研学生がより多くの学会で発表できる機会を与える。
- ・長期目標：臨床現場で活躍するより高い能力をもった薬剤師を目指すために、現在、殆ど大学院への進学者がいない中、学部時代に学ぶことの楽しさを知ること、進学者を増やし、博士号を取得した上で、臨床で活躍して欲しい。